

学部・研究科名 生命科学研究科（農学研究科）

学部長・研究科委員長名 坂田 洋一（馬場 正）

学科名・専攻名 バイオサイエンス専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	特論・特論実験・特別演習・特別実験・特別研究の必修科目のほか、分野横断的な選択科目（生命情報科学・分子細胞生物学など）および論文英語・プレゼンテーション法など、大学院博士前期、後期課程にふさわしい授業を実施している。特に分野横断型選択科目については、積極的に学外の第一線の講師を呼んで、講義を行っている。	教員、学生間また学生同士の交流を活性化するため、ポスター形式による専攻全体での中間発表会、懇親会などを行っている。	学生の活動率評価、中間報告会、修論発表会等により評価する。	研究室毎のゼミ、授業の習熟度および、専攻全体の発表会に基づき評価している。	研究室毎のゼミ、授業評価等に基づき、全所属教員により定期的に点検・評価し、その結果について専攻会議で慎重に議論し、教育課程の内容と方法を決定している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・先端研究の知識、技術を身につけられる点。	【長所】 学生自身の自主性を尊重する点	【長所】 特になし	【長所】 グループだけでなく個人とのディスカッションを通じてきめ細かな指導を行っている。	【長所】 特になし
	【特色】 ・外部講師等、学外の情報も積極的に取り入れられる点	【特色】 学部からの内部進学生が多く学生間の交流が活発な点	【特色】 特になし	【特色】 特になし	【特色】 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 ・なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	大学院カリキュラム、大学院学生便覧、大学院シラバス、学外講師一覧、専攻 3 ポリシー	中間発表実施記録	中間発表実施記録、修論発表会実施記録	専攻全体の発表会実施記録、専攻 3 ポリシー	

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	アドミッショ・ポリシーに基づき、生命科学に強い関心を持ち、食糧、環境、健康問題の解決にチャレンジできる学生を求めている。大学院進学後に必要な学力を評価するために分子生物学、英語を試験科目として科しており、これらの筆記試験に加え、複数の教員による面接を実施している。全ての科目の試験後に専攻長を中心とした専攻教員全員による入試判定委員会により公正かつ客観的に選抜している。	試験後に選考会議を実施し、専攻の教員で十分に議論した上で選抜する。また研究室毎のゼミだけでなく、中間発表会より専攻全体で適切性について判断する。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・受験生とは選抜試験前からコンタクトを取り、進学後や卒業後の進路についてディスカッションを行っている。	【長所】 ・一人の学生の教育に複数教員が関与するため公正に点検、評価できる点
	【特色】 ・面接では専門知識だけでなく人柄も確認できる。	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	大学院入試募集要項、専攻3ポリシー	中間発表実施記録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	設置の趣旨に基づき、学科の専任教員を配置している。専任教員の採用は、原則として公募し、募集要項にて専門分野に関する能力、教育に対する姿勢などの資質を明記している。 また、大学の理念・目的、研究科の教員組織の編成に基づき、専攻の教員組織の編成方針を作成し、本学のホームページ上で公開している。	指導教授として文部科学省の設置基準を上回る教授 9 名を配置しており、十分な教育、研究指導を行うことができる。	専攻の教授により構成される人事委員会により以下の根拠資料に基づき実施している。	自己教育評価、授業評価により、授業、研究指導、国際交流、大学運営、課外活動、学外活動を評価している。また、全学的な FD 委員会にも参加をしている。また教員全員が原則として科学研究費補助金をはじめとする外部研究資金に申請することになっている。	学部改組に伴い、本専攻の教員組織に関しても教員体制を変更した。動物、植物、細胞分子機能の 3 分野の体制は維持し、それぞれの分野を専門とする教員を配置した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・生命科学の幅広い分野を網羅できる教員の配置	【長所】 ・動物、植物、細胞分子機能の 3 分野にバランス良く教員を配置している点	【長所】 ・人事委員会による教員体制の定期的な確認	【長所】 ・外部研究資金の獲得推進	【長所】 ・3 分野に各 2 研究室というバランス良い教員体制
	【特色】 ・同上	【特色】 ・適切な年齢、職位バランスを考慮した採用、昇任を行っている点	【特色】 ・各活動の点数化による明確な昇格目標の提示	【特色】 ・外部研究資金への申請	【特色】 ・複数の女性教員の配置
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	学科（専攻）教員配置表	学科（専攻）教員配置表	◆教務職員資格審査基準及び関連書類	科研費等外部資金申請状況	学科（専攻）教員配置表

学部・研究科名生命科学研究科

学部長・研究科委員長名坂田 洋一

学科名・専攻名分子生命化学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	文部科学省に対する設置申請に基づいた教育課程を編成しており、特論科目、特別実験、特別演習の他、分野横断型科目や英語論文購読、プレゼンテーション法など、修士課程に相応しいカリキュラムを編成している。本年度が修士課程の完成年度となったが、大きな修正は必要ないと判断し、博士課程の完成を目指す。	自主的な研究活動を推奨するとともに、特別演習や英語論文購読、研究報告会での学生同士、学生と教員間の活発な議論を通じて交流を活性化している。専攻にとって初となる修士2年生による中間発表会、修士論文発表会もおおむね順調に実施でき、専攻全体の活性化と研究意欲の増進につながった。	各分野に対する理解度や演習での積極性などに加え、日常的な研究姿勢や研究報告も踏まえて、総合的に評価している。学位授与方針に従った学位授与を予定している。	伝統的な化学の視点を保持しながらも、時代の変化に囚われない普遍的な価値を持ち、確かな自然科学系の基礎知識・技術を身につけた人材の養成のため、習熟度や研究姿勢などから総合的に評価している。	修士課程の完成年度を迎え総合的な点検を行ったが、現時点で問題ないことを確認している。来年度以降の博士後期課程の設置を通じて、博士前期課程についても全体的に見直しを継続予定である。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・幅広い知識を習得出来る	【長所】 ・学生の自主性	【長所】 ・なし	【長所】 ・議論を通じた総合的な指導と評価	【長所】 ・なし
	【特色】 ・最先端の研究を実施出来る	【特色】 ・教員と学生の活発な交流	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	講義要項	研究報告会資料	専攻3ポリシー	研究報告会資料、専攻3ポリシー	博士後期課程設置申請資料

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	受け入れ方針に基づき、化学を中心とする伝統的科学に興味と学習意欲を持ち、農学・生命科学領域における問題の解決を目指す学生を求めている。大学院進学後に必要な学力と意欲を評価するために、専門科目（5科目から2科目）と英語の筆記試験とともに、複数教員による口述試験を課している。試験問題は専攻教員からなる入試委員会で相互確認し、出題の適正や難易度を判断している。試験結果については専攻教員全員で合否を審議し、客観的で公正な選抜を実施している。	年2回の大学院入試の前後に、求める学生像や受け入れ人数、試験問題の出題方針などを専攻内で議論している。受け入れた大学院生については複数教員で指導を行い、大学院生としての資質、学力、研究推進力などを備えていることを確認し、受け入れの適切性についても確認している。博士後期課程についても初の募集を行い、専門性や適性を問う口述試験を経て5名の受入れを決定した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・専門科目が選択でき、広い学識とともにより高い専門性も測ることが出来る。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・指導教員だけでなく複数教員による客観的な指導と公正な評価
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	大学院募集要項、専攻3ポリシー	研究報告会資料、専攻3ポリシー

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	専攻設置の趣旨に基づき、農学・生命科学領域において化学的知識に基づいた展開可能な基礎力を駆使し様々な案件に対応可能な人材を養成可能な専任教員を配置する方針としている。教員の公募、採用時には本方針を明示している。	専任教員13名（教授4名、准教授5名、助教4名）を2分野（有機化学分野、分子機能解析学分野）にバランス良く配置し、十分な教育・研究指導が可能な体制を整えている。本年度は教員の昇格も検討した。	教員人事に関しては、学科内の専任教授よりなる人事委員会を組織し、大学の定める「教員採用・昇格に関する条件」に基づき判断している。来年度より2名の准教授を教授に昇格することを決定した。本年度退職予定者の後任人事1名に関して公募を開始した。また2名が同時に退職する研究室に関しては早急な教員確保を検討中である。	新任教員に対する研修を通じて教員としての資質向上をはかっている。また、自己教育評価や学生による授業評価を通じた評価体制が整っている。	教員の資質や年齢構成を総合的に判断しながら教員の配置を行っている。本年度は2名の准教授の教授昇格を決定するとともに、退職予定者の後任人事1名について公募を開始した。教員の欠員による影響を最小限に抑制し、継続的な教育・研究体制の維持を図っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・化学を基盤とした教育・研究体制の充実	【長所】 ・化学を基盤とした教育・研究体制の充実	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・化学を基盤とした幅広い生命科学分野の教員配置	【特色】 ・化学を基盤とした幅広い生命科学分野の教員配置	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・適正状態の維持に必要な人事	【課題】 ・適正状態の維持に必要な人事	【課題】 ・	【課題】 ・適正状態の維持に必要な人事
根拠資料名	設置の趣旨	学科ホームページ	人事申請資料	自己教育評価 授業評価	なし

学部・研究科名生命科学研究科

学部長・研究科委員長名坂田 洋一

学科名・専攻名分子微生物学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	専攻の特性を反映した科目である特論科目、特別実験、特別演習に加えて、論文英語やプレゼンテーション法といった、研究を推進する上で必要な学位課程にふさわしい科目を体系的に編成している。	教員と大学院生の議論の場を研究室内および専攻内で設けると共に、論文紹介等を通じて研究の最新情報を得て大学院生の研究意欲を活性化させている。	授業内容の理解度や積極性、研究への取り組み姿勢に基づいて適切に成績評価および単位認定を行っている。	研究室で実施するゼミや専攻内の発表会によって学習成果を把握し、評価している。	研究室内および専攻内で定期的な教育内容の点検や評価をしている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・研究に必要な一連のスキルが習得できる。	【長所】 ・自主性や意欲の向上	【長所】 ・なし	【長所】 ・議論により、理解度を見極め、必要に応じて適切な指導ができる。	【長所】 ・複数教員での授業進行、内容および方法改善
	【特色】 ・先端的な研究ができる。	【特色】 ・活発なディスカッション	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	講義要項	発表会資料	専攻の3方針	専攻の3方針	

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	アドミッションポリシーに基づき、生命現象に強い関心をもち、分子微生物学分野に期待される最先端技術・知識を活用した様々な社会問題を解決できる人材を求めている。入学者選抜ではこれらに関連する学力を評価するため、微生物学、生物化学、分子生物学、英語を筆記試験科目としている。加えて、複数の教員による口述試験を実施している。これら試験結果をもとに専攻教員全員により入試判定委員会を開き、客観的で公正な可否の審議を実施している。	筆記試験と口述試験の結果を踏まえて十分に検討し学生を受け入れ、研究室および専攻で適切性について点検、評価している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・専攻の研究に関連する分野の学力を評価できる。	【長所】 ・複数の教員によって多面的に点検、評価できる。
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	専攻の3方針、大学院募集要項	専攻の3方針

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	専攻設置の趣旨に基づいて、生命科学分野における創造的、独創的な研究を推進できる人材を養成できる学科専任教員を配置している。ホームページ上や専任教員の公募の時に本方針を明示している。	専任教員 10 名（教授 5 名、准教授 5 名）からなり、専攻の 2 分野（微生物機能分野、生物間相互作用分野）において十分な教育研究指導が行える。	教員募集や採用については専攻教授からなる人事委員会で基準を設けている。また、全教員の業績を確認し、昇格の規定を満たしているか、将来的にどのタイミングで昇格できるかを議論している。	教員の資質向上のために研修を受講するとともに、自己評価点検や学生からの授業評価を改善の参考にするようにしている。	学科専任教授会を中心に、研究室毎の教育研究の内容確認および方向性の明確化を進め、分野および専攻の方針と一致しているか評価し、必要に応じて改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・生命科学分野の教育研究環境の充実	【長所】 ・分野毎にバランスよく専任教員が配置されている。	【長所】 ・適切な募集・採用・昇任を進めている。	【長所】 ・なし	【長所】 ・教員個々の自由度を保ちつつ、必要な点検・改善を進めている。
	【特色】 ・微生物学分野を軸とした生命科学分野の教育研究環境の充実	【特色】 ・5 つの研究室の教員の専門性や年齢構成のバランスが保たれている。	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	HP	HP	人事申請資料	自己教育評価 授業評価	研究業績

学部・研究科名 生命科学研究科
学部長・研究科委員長名 坂田 洋一
学科名・専攻名 バイオサイエンス専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	研究室という集団の中で、研究、実習を行うことでコミュニケーション能力、リーダーシップ、協調性や対人関係の構築力を養うと共に、各個人の独自性、創造性を発掘する。	最先端の知識、技術を習得する中で、自ら情報を収集する能力、問題解決能力を養う。	自らの研究内容を自在に発信・討論できる能力を養成する。
実行サイクル	2 年サイクル（令和 3 年～ 4 年）	2 年サイクル（令和 3 年～ 4 年）	2 年サイクル（令和 3 年～ 4 年）
実施 スケジュール	特別実験Ⅰ～Ⅳにおいて研究室での実験実習、担当教員とディスカッションを通じて教育指導を実施する	分野ごとの特論Ⅰ・Ⅱ、専攻共通の特別演習Ⅰ～Ⅳにおいて基礎的な知識や最新の研究の動向を理解すると共に、学会、研究会に参加する。	研究室ごとに開講・実施されるプレゼンテーション法において、プレゼンテーションの基礎を学ぶ。また研究成果を国内外の学会、研究会で発表する。
目標達成を測定する指標	研究室での活動率、および中間発表会、修士・博士論文発表会によって判断する。複数の教員で各大学院生の進捗を把握すると共に、適切な指導を行う。	中間発表会、修士・博士論文発表会で判断する。また学会、研究会で得られた情報を教員と共有する。	中間発表会、修士・博士論文発表会によって判断する。また学会での発表も評価の指標とする。
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	適切にスケジュールを実施することにより、目標を達成している。	自らの情報収集をもとに新たな課題の提案などもあり、また問題解決を行うためのコミュニケーション能力も十分に示された。	積極的な学会発表、参加を行った。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 研究（研究室活動）が主であるため、院生同士での繋がりが密である。	【長所】 異分野の教員との積極的なディスカッション。	【長所】 年2回程度の外部での発表を目指している。
	【特色】 特になし	【特色】 特になし	【特色】 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	中間発表会、修士・博士発表会プログラム	中間発表会、修士・博士発表会プログラム、発表学会リスト	中間発表会、修士・博士発表会プログラム、学会発表者リスト

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	生命科学分野における先端研究を推進させる為に、国内外での研究動向、情報をいち早く収集する。	先端研究の推進には、先端技術を駆使した機器および試薬の使用が必須であるため、外部からの競争的研究資金を積極的に導入する。	学術論文の投稿だけでなく、一般向けの講義、講演会やインターネット、出版物を通じて研究成果を発信する。
実行サイクル	____ 2 ____ 年サイクル（令和 3 年～ 4 年）	____ 2 ____ 年サイクル（令和 3 年～ 4 年）	____ 2 ____ 年サイクル（令和 3 年～ 4 年）
実施スケジュール	学会、研究会に参加しこれらの情報収集に役立てる。また有益な情報は学科教員間で情報交換する。	原則として、教員全員が、科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金に申請する。	学内、学外での模擬講義、出張講義、講演会を実施する。Web上での情報発信を行う。
目標達成を測定する指標	学会、研究会への参加状況を確認する。	外部資金申請者、獲得者を確認する。	投稿論文数、模擬講義、講演の回数を確認する。ホームページのコンテンツ改訂を確認する。
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	適切にスケジュールを実施することにより、目標を達成している。 国内において 73 件の学会発表を行った。その中で、学会賞を 5 件獲得した。また 5 件のシンポジウムを開催した。	全員ではないが外部資金の獲得状況は良好である。 概ね、全ての教員が学内におけるプロジェクトや科学研究費補助金等の競争的研究資金に申請し、研究資金獲得数は、科研費が 15 件、科研費以外が 13 件を達成できた。	学科ホームページの更新を行った。 ○オープンキャンパス（令和4年8月6日,8月7日）、オンラインオープンキャンパス（令和4年8月25日,8月26日）で模擬講義（4回）、高校への出張講義（5回）、市民講座（1回）を実施し、全教員がこれらに取り組んだ。 ○研究成果のプレスリリースが新聞誌面や web site に掲載され（2回）、web 掲載もされている国内の学会誌に記事を掲載した（2報）。高校生や一般市民に広くその情報を発信した。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし	【長所】 ・
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	学会、研究会への参加状況	外部資金申請、獲得状況	模擬講義実績、講演会実績

3. その他に関する総合的事項

	①	②
目 標	本専攻での研究成果を海外に発信する。	生命科学分野の教育・研究を通じてグローバルな視点を持ち、世界の人々と対等に意見交換のできる人材を育成する。
実行サイクル	____ 2 ____年サイクル（令和 3 年～ 4 年）	____ 2 ____年サイクル（令和 3 年～ 4 年）
実施 スケジュール	国際学会への参加を奨励する。また研究成果を英語の論文としてまとめ発表する。	英語によるプレゼンテーション研修を実施する。国際協力センターの留学プログラムの周知と短期留学を奨励する。これに加えて、コロナ禍での世界情勢を勘案しつつ、海外でのインターンシッププログラムの企画を検討する。
目標達成を測定する指標	国際学会への参加回数、論文掲載数を確認する。	英語によるプレゼンテーション研修については発表会を行い成果について評価する。留学プログラムおよびインターンシップの参加状況を確認する。
自己評価 (☒)を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	概ね、状況は良好である。 学科所属の研究室が国内外の研究コミュニティで研究発表に努め、研究成果を論文として国際科学雑誌へ41報掲載した。 国外において8件の学会発表を行った。国際シンポジウムを1件開催した。	疫病の蔓延により、海外インターンシッププログラムの企画、遂行を断念したが、協定校留学は実施した。 外国人非常勤講師（Tine Jeoh 博士、Georgia Drakakaki 博士；UC. Davis）を招聘し、大学院の授業ならびに学部生・教員を対象としたセミナーの開催を計画したが、コロナ禍により来日できなかった。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・他分野の研究者同士での積極的な交流が可能。	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・海外インターンシッププログラムの企画 ・外国人研究者招聘
根拠資料名	論文リスト、自己点検システム	

学部・研究科名生命科学研究科

学部長・研究科委員長名坂田 洋一

学科名・専攻名分子生命化学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	建学の精神と専攻設置の趣旨を涵養する	最先端の知識、技術を、広汎・総合的に獲得させるとともに、自らの情報を収集し問題を解決する能力を養わせる。	全教員が協力して大学院生の教育と研究を推進させる
実行サイクル	1 年サイクル（令和 4 年～ 5 年）	2 年サイクル（令和 4 年～ 6 年）	1 年サイクル（令和 4 年～ 5 年）
実施 スケジュール	新入生に建学の精神と専攻設置の趣旨について理解する機会を提供する	分野ごとの特論（一）、（二）において基礎的な知識や最新の研究の動向を理解し、自らの研究成果を報告、議論する。	特論講義、特別実験、特別演習などを通じて、全ての教員が大学院生の指導に寄与し、専攻全体で中間発表や学位論文発表会を実施する。
目標達成を測定する指標	報告書や議論を通じて学科教員が評価する	特別演習などで報告や議論、中間発表会、学位論文発表会で判断する。	全教員の教育と研究への寄与で評価する。
自己評価 （☑を記入）	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	各研究室でのセミナーや勉強会を通じて、農大で化学研究を行う歴史的背景や意義を教授した。また課題、中間報告会や中間報告書、それらを介した教員や同級生との議論により、個々の大学院生の理解度を判断した。	座学、研究活動、議論を通じて、学部で獲得した知識や経験を向上させ、多岐にわたる知識を連携させる教育を実施した。研究報研究活動を通じた経験と知識の獲得を含め、複数の教員との議論を通じて総合的な能力を評価し、習熟度レベルに合わせた教育と研究を行った。専攻中間発表会や修士論文発表会を通じた研究室外教員との議論も有意義であった。	全ての教員が座学、研究を通じて大学院生の指導に関わった。大学院設置1年目の本年度は、研究室内の3教員が連携して研究室所属の大学院生を指導する体制作りに注力しつつ、専攻中間発表会や修士論文発表会を通じて、他研究室の大学院生への教育体制も構築した。大学院生による研究成果も順調にあがっている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	研究報告資料	講義要項、研究報告資料	講義要項

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	先進的な研究持続のために、外部資金の獲得に努める	大学院生が関わる研究活動の活性化と研究成果の発表を積極的に行う	充実した研究環境の整備に努める
実行サイクル	_____年サイクル（令和 4年～ 5年）	_____1_____年サイクル（令和 4年～ 5年）	_____1_____年サイクル（令和 4年～ 5年）
実施 スケジュール	科研費を始めとする競争的外部資金や学内の研究プロジェクトに積極的に応募する。	大学院生が、学部生や教員がともに研究を行い、学会発表や論文の投稿などを目指す。	共通実験機器の管理体制を確立するとともに、各研究室の研究環境を整える。
目標達成を測定する指標	各教員が外部資金の公募に応募したかを評価する	各教員が研究成果を発表したかを評価する	機器や備品の管理や、研究環境の維持が適切に行われたか評価する。
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	ほぼ全ての教員が科研費へ応募しており、研究責任者もしくは研究分担者などとして研究費を獲得している教員も多い。また2名の若手教員が学内プロジェクトに採択されている。	学科全体的に活発な研究活動が推進された。研究の性質上4年生の対外的な発表は少ないものの、主に大学院生の研究成果を論文投稿や学会発表として数多く発表出来た。開催された学科の半数程度はリモート形式であり、本来の活発な学会活動を体験させたいところである。他グループとの共同研究も順調に進んでいる。優秀発表賞などの受賞学生も複数見られた。	各研究室の研究設備や共通機器である核磁気共鳴装置などの維持・管理は適切に行われるとともに、実験設備の学科内での共同利用なども円滑に行えた。機器管理の役割分担も明確で、本年度着任の新規教員たちも積極的に維持・管理に参画している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・コロナ禍のためリモート形式での学会発表が多かった	【問題点】 ・なし
問題点及び次 年度への課題	【課題】 ・科研費以外の外部資金獲得にも努める	【課題】 ・4年生の段階で学会活動に参加させ、研究意識を高める	【課題】 ・研究活動をより活発化する様な研究室の雰囲気作りに努める
根拠資料名	科学研究費助成事業データベース、農生命科学研究所ホームページ	農大ホームページ、自己点検システム	なし

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	教育の質保障に取り組む	専攻の宣伝活動を積極的に行う	博士後期課程進学者の獲得
実行サイクル	1 年サイクル（令和 4 年～ 5 年）	1 年サイクル（令和 4 年～ 5 年）	1 年サイクル（令和 3 年～ 4 年）
実施 スケジュール	各教員が担当科目の内容について良い点・改善すべき点を整理し、 初年度の教育内容について検証する。	学内外で専攻の魅力について紹介するとともに、HP など情報発信す る。	博士後期課程に進学する大学院生を獲得する。各研究室での研 究活動を通じて、大学院生との議論や意思疎通を積極的に行 い、専攻の趣旨や研究意義などを伝える。
目標達成を測 定する指標	次年度へ向けて教育内容を見直す機会を設定する。	情報発信を行ったイベント、媒体について評価する。	博士後期課程進学希望者数で評価する。
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	各教員や各研究室内での教育活動は順調に進んでいるが、研究室を跨 いだ教員間での相互確認までは至っていない部分がある。専攻全体で の中間発表会や修士論文発表会を通じて、個々の大学院生の熟達度を 専攻内全教員で評価するとともに、各教員の教育と研究指導の方向性 の相互確認を継続的に行う予定である。	主に学科、研究室のホームページ、教員・研究情報を通じて発信すると ともに、学会活動や研究活動を通じた専攻の情報発信に努めた。専攻（学科） のホームページに関しては、本年度は学科・専攻内での情報を随時更新し、 一定の効果は得られた。学部広報委員などを通じた宣伝活動にも力を入れ たい。研究室ごとの情報発信には温度差あり。	設置初年度の博士後期課程進学内定者は5名おり、数の上での目 標は達成されている。進学者の化学への興味と研究意欲を維持向 上させ、活発な研究活動を推進すること、継続的な志願者の獲得 が、今後の課題となる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・発表会などを通じて、継続的に専攻内全体の教育効果を確認する	【課題】 ・全ての研究室・教員でホームページなどを通じた情報発信に努める	【課題】 ・進学者による活発な研究活動を推進と、継続的な志願者の獲得
根拠資料名	なし	研究室ホームページ、教員・研究情報	なし

学部・研究科名 生命科学研究所
学部長・研究科委員長名 坂田 洋一
学科名・専攻名 分子微生物学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	文献調査や学会参加による情報収集から研究の発展につなげる能力を養う。	最先端の実験技術を学ぶと共に研究のための的確な実験技術の選択と習得により研究を推進させる。	研究内容の発信と討論ができる能力を養う。
実行サイクル	2 年サイクル（令和4年～令和5年）	2 年サイクル（令和4年～令和5年）	2 年サイクル（令和4年～令和5年）
実施スケジュール	論文英語科目や学会参加のレポート提出等によって教員とディスカッションする。	特論科目、特別演習科目や学会の参加において最先端技術の知識を得ると共に、技術の活用について教育指導する。	プレゼンテーション法によって発信する能力を養うと共に、学会発表をする。
目標達成を測定する指標	レポートの内容とディスカッションを基に教員が評価する。	専攻での発表会により教員が評価する。	専攻での発表会と学会発表の質疑応答等を指標に教員が評価する。
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	論文調査の報告会や聴講した講演についてのディスカッションを実施している。	進捗報告会を頻繁に実施し、実験手法の選択の適格性や該当分野の新たな実験技術について指導している。	進捗報告会や学会発表の質疑応答について、改善すべき点等を指導している。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・入手した情報を精査し研究に活用できている。	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名		報告会要旨集	報告会要旨集

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	研究を推進するための最先端技術について国内外から情報収集する。	費用が掛かる最先端技術の実験が実施できる環境を構築する。	研究成果を学会発表や論文の投稿、インターネットを通じて発信する。
実行サイクル	___2___年サイクル（令和4年～令和5年）	___2___年サイクル（令和4年～令和5年）	___1___年サイクル（令和4年～令和5年）
実施 スケジュール	論文調査および学会参加の報告レポート内容について指導する。	教員が各種外部資金を得るために必要なことを実施する。	学会への参加、論文の投稿、インターネットコンテンツの更新を行う。
目標達成を測定する指標	レポートの内容を基に教員が評価する。	外部資金申請や獲得状況を確認する。	学会発表、論文の数を確認する。コンテンツの更新を確認する。
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	論文調査や学会聴講の内容についてディスカッションし、実験技術情報の収集について指導している。	公的資金や企業との共同研究による研究費を獲得している。	修了までには必ず学会発表をすることとしている。また、論文発表を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名		共同研究、受託研究、寄付など（農生研）	業績（学務課）

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	修士課程修了後の進路目標を早期に設定するため、各学生の進学／就職活動への円滑な導入を支援する。	専攻の広報をする。	国内外の学外研究者と接する機会を設ける。
実行サイクル	____ 1 ____ 年サイクル（令和4年～令和4年）	____ 1 ____ 年サイクル（令和4年～令和4年）	____ 1 ____ 年サイクル（令和4年～令和4年）
実施 スケジュール	博士後期課程進学希望者には学術振興特別研究員制度（DC1）への応募の準備や斡旋などを行う。就職活動希望者には、インターンシップ等を通じた企業活動への参加や卒業生の招致による就職支援会等を実施する。	学内外に対して専攻について紙媒体やインターネット等を通じて情報発信する。	教員を通じて国内外の学外研究者と対面やオンラインで話ができる機会を設ける。
目標達成を測定する指標	大学院説明会や就職支援懇談会実施後にアンケートやレポート等を実施し、各学生の進路調査を実施すると共に、研究室ごとに各学生の調書を作成し、適切な進路指導を行う。	情報発信した資料を評価する。	実施報告で評価する。
自己評価 （ ☒ を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	就職希望者に対して情報提供や支援を実施している。博士後期課程進学希望者に対し説明会を開催している。	SNS を通じて研究内容や学会活動について発信している。	学外の研究者による特別講義を実施、国内外の研究者と研究を行う機会を設けている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・DC1 公募の情報入手の遅れ	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特別研究院公募について HP をチェックするなどして事前に情報収集する。	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名		Instagram、Twitter	